

専門新聞協会がフェスティバル

文教速報の発行元である官庁通信社など80社以上の報道機関が加盟する公益社団法人日本専門新聞協会（理事長…入澤 亨官庁通信社社長）は、恒例の日本専門新聞大会フェスティバルを、10月17日に東京・有楽町の帝国ホテルで開催した。

同フェスティバルは、同15日から1週間にわたる新聞週間に合わせて、わが国唯一の公益社団法人として認定されている報道機関団体である日本専門新聞協会最大の文化的事業かつ公益目的事業として実施しているもの。

77回目となる今回は小林慶一郎慶応義塾大学経済学部教授による時局講演とともに、記念式典、祝賀会の3部構成で行われた。衆院選告示後ということで、国会議員の出席は例年に比べ少なかったものの、野田毅元自治大臣らが駆け付けるとともに、石破 茂首相や阿部俊子文部科学大臣からは祝電とともに、祝花が贈られた。

第一部では、小林慶大教授が『日本経済の展望と課題』と題して講演。①過剰債務、②財政の持続性、③フューチャーデザインなど、財務大臣の諮問会議である財政制度等審議会委員として、予算編成や支出のあり方といったことを大所高所から議論してきた知見などを踏まえ、わが国財政を取り巻く現状・課題や、進むべき方向性などを語った。

「公的債務がGDPの90%を超えると、経済成長率が1%減少する」といった海外での実証実験結果などを事例に挙げて、財政



時局講演を行う
小林慶大教授

健全化の必要性を強調。さらに、財政健全化を進めるためには社会保障予算のカットなど

式典で挨拶する
入澤理事長



政治的解決が不可欠であることから、現役世代だけでなく、将来世代の利益も含めた政策議論である『フューチャーデザイン』への期待感を表明した。



長官祝辞を代読
する村瀬課長

内閣府審議官らが出席した第2部記念式典では、大会会長を務める入澤専門新聞協会理事長の挨拶とともに、文化庁長官祝辞を村瀬剛大國語課長が代読した。入澤理事長は「これまで以上に専門的な情報の報道に特化したメディア集団であることを自覚し、確かな情報の報道に努める」と決意を述べ、村瀬課長は昭和22年の創設から長きにわたり安定した情報提供で社会発展や活字文化発展に貢献してきた協会の意義を高く評価。そのうえで、「情報が氾濫するなか、情報の重要性が増しており、各分野の発展と活字文化の維持発展に引き続き尽力いただきたい」と、読者総数1200万人超を誇る専門新聞にエールの言葉を送った。

